

ホーポノポノ アジア・太平洋の平和

PAX PACIFICA

著：ヨハン・ガルトゥング（TRANSCEND 主宰）

日本語翻訳チーム：奥本京子、藤田明史、中野克彦（トランセンド関西）

ホーポノポノとは、ポリネシアの「正しく戻す」という意味をもつ言葉である。それを、紛争の転換や和解への手引きを意味するハワイの呼び方として借用することとする。加害者、被害者、両方の要素をもつ者、どちらでもない者等すべてが、「長老」が議長を務めるテーブルの周りを囲み、思いおもいに話をする。

<ホーポノポノでは、5つの局面に沿って進めていく>

- [1] 事実を照合する。それぞれの国の立場から見て何が起こったのか。
- [2] なぜ起こったのか探求する。「主体のある行為」を注視する。
- [3] 責任を分かち合う。「主体なき行為」をも謝罪する。
- [4] [1]、[2]、[3]に基盤を置いた、建設的な、将来を見据えたプログラムを考案する。
- [5] 紛争が終結したことを宣言する。象徴的に、記録を燃焼させる。

<登場人物： 長老以外に、12人（国ごとのグループに分かれて座る）>

長老

日本の政治家

朝鮮半島の政治家

日本の零戦突撃隊員

朝鮮半島の「従軍慰安婦」

日本の女性ヒバクシャ

在日コリアン

米国の政治家

中国の政治家

米国の原爆投下操縦士

中国の南京大虐殺の犠牲者

米国・ハワイ人

チャイニーズ台湾人

長老が目的を明確にしながらかほーぽノぽノを開会する。かほーぽノぽノは、次第に[2]、[3]、[4]の局面を進んでいく。各参加者が、各局面において、台詞を言う。大勢が一緒になって進めていく。以下は、当時何が起こったのか、また、アジア・太平洋地域においては当時何ができ得たのかについての意見の要約である。

【長老】 参加者（朗読の配役についている）のみなさん、そして、それをご覧になりはするがかほーぽノぽノの間は何も口を挟むことの許されない観客のみなさん、こんにちは。あとで、フロアを開いて皆で討議できるようにしますから、どうぞご安心ください。

今日は、ここに集まって、1931年から45年までの15年戦争で、また戦前・戦後を含めて何が起こったのか、より良く理解してみましよう。われわれは今まで、開始と終結がはっきりしないことにより、その原因と結果の網に織り込まれたような状態の中にいたとっていいでしょう。だからとって、「お前が犯人だ！」というような告発はやりませんから、どうぞご安心ください。

しかしながら、今回の目的はただの理解にとどまりません。われわれがやったことによる、そしてさらにやらなかったことよって起こった恐怖の数々に対する、それぞれの責任に関して役割を担ってもらうのです。ですから、単に説明に終わるのではなく、それ以上のところに焦点を当てたいと思います。また、やらなかったことではあるが、やることが可能であったことを考えてみたいと思います。われわれは人間ですから、強制的に行動させられ、後にそのことを後悔するようなこともあります。また、15年戦争の複雑な全体像を理解するのも、限界があります。しかし、そういったことも含めて、われわれが何者であるかということを見据えてみたいと思うのです。責任を分かち合いながら、今ここに集っています。謝罪するためにここにいます。ひょっとしたら、われわれ自身へ、お互いへの、あるいは、ここにいない他者への謝罪かもしれません。しかし、そのためには、あの恐怖が再び繰り返されないために、何かなされ得るのかを探ることも大切です。

この場で、今までの第1章を閉じて、次の章へ向かいましょう。太平洋の一方の縁から別の縁へと、幸せな共生の1例を作り出せるかもしれません。

ここで話されたことをメモに取る人もいるかもしれません。しかし、そこで起こることは、あなたと紙との間だけのことではないのです。つまり、あなたとあなた自身の間で起こることが重要なのです。また、あなたとテーブルと一緒に座っている隣人との間で起こることが大事です。日本語で「縁起」と仏教が教えるように、あなた方全員と、この相互の関わり合いの巨大なネットワークにおけるすべての人の間で起こることなのです。

これらの相互関係性は、だいたい3つに分けられることが多いでしょう。1つは、東アジア（特に中国や朝鮮半島）を攻撃した日本、次に、真珠湾を攻撃した日本、そして、日本を攻撃し、広島と長崎にキノコ雲をもたらした米国。そのような区別は現実のものではありません。このホーポノポノにおいては、これらの3つの項目はお互いに連動しているとして、扱われていきます。

第1段階

【長老】 では、朗読してくださる参加者の皆さんに、語りかけたいと思います。あなた自身の、あるいは他者の「主体のある行為」に、また、1931年から45年の15年戦争で起こった出来事に焦点をおきながら、なぜ起こったのかを一緒に探っていきましょう。日本の政治家の方、まずは、どうぞ。

【日本の政治家】他にどんなことができたというのでありましょうか。西洋はわれわれを包囲し、米国、オランダ、英国、ハワイ・米国海軍がありとあらゆるところに居たのであります。彼らが植民地に対してもっていたのと同等の権利がわれわれにもあったのです。彼らは、もう十分なほどに所持していました。われわれは若く、活気溢れる国家でした。

西洋から独立したいと願う隣国諸国もたくさんありました。他にも、疲弊し滅亡しかけた王朝からの解放をもとめている国々もありました。われわれは自由だったのであります。彼らは、われわれの活力を必要としていたのであります。そして、禁輸措置という恐喝を受けたのです。もちろん、われわれは西へ、南へ、北へ勢力を伸ばしました。また、背中をも守る必要がありましたから、真珠湾からの脅威を排除する必要もあつたのであります。

【日本の零戦突撃隊員】 はい、そのように執行しました。それは、1941年12月7日、ハワイ時間の早朝でした。われわれの追跡に躍起になっている米国航空機の行動半径の外に出るためにハワイから全速力で離れつつあつた航空母艦から、われわれは離陸したのであります。帰還するに十分な燃料が残るギリギリのところまでわれわれの空母は近づいたのです。われわれには明瞭な使命がありました。それは、われわれを威嚇する米国太平洋艦隊を除去し、しかし市民の犠牲は最低限にとどめるということでありました。そして、成功しました。天皇陛下のために、日本のために。

【日本の女性ヒバクシャ】 そうして、私たちは高い代償を払うことになったのです。「ヒバクシャ」として、そして日本の市民としての苦悩は、言葉に出来ないほどのものです。1945年8月6日、それは雲ひとつない空から稲妻のようにやってきました。兵隊ではない私たちを、彼らは殺すことを目的に殺したのです。大勢がその瞬間に生命を落としました。また大勢がゆっくりと死に向かいました。放射能によってじわじわと体を蝕まれていった人もたくさんいます。なぜですか、なぜ！ それは、彼らが言うように私たちは「黄色い」日本人だからですよ。彼らには、殺しのための許可も必要なければ、殺しても罪を感じる必要もないのです。このことについて彼らがどのように書き残しているか読んでごらんください。彼らの博物館を見てごらんください。首飾りや耳飾りを見てごらんください。彼らは、このことを誇りに思い、お祝いしているのです。

【米国の政治家】 確かに、広島と長崎に原爆を投下しました。しかし、あくまでも、太

平洋方面作戦の最中、言葉にできないほどの苦しみを味わったわれわれの兵士の生命を救うためにやったのですよ。戦争を終結させるための決断だったのです。なぜかって？ 真珠湾のことを知らないのですか。やつらがこれを始めたのではないですか。だからわれわれがそれを終結させたのです。どこかで終止符を打つ必要があったのですよ。

【米国の原爆投下操縦士】　そうです、われわれがやりました。米国民の生命を無駄にしないで戦争を終えるための、特殊な爆弾があると聞かされたのです。飛行企画自体も大変特殊なものでした。キノコ雲が上がるのを見ました。聞かされていたこと以上の何かを感じ、なんだか恐ろしい気分になったのを覚えています。私は、その現場のど真ん中にいたのですから。

【米国・ハワイ人】　私がどう感じたかをお話しましょうか。飛行機やら爆弾やらがたくさん落下するのを、そして炎が上がるのを見ました。また、爆発音をたくさん聞きました。当然、怖くなりましたよ。でも、それ以外に感じたこともあるんです。日本人は、私たちのハワイではなく、白人のハワイを攻撃したんだ、と。50年前に彼らが私たちから盗んだ、私たちの最愛の王国ではなくて。同時に、この攻撃は間違っていると感じたように覚えています。

【朝鮮半島の政治家】　日本はわれわれを植民地化したのです。われわれを搾取したのです。われわれの女性を強姦したのです。そして、最悪のことは何か分かりますか？ 勝者が分割して思いのままに扱えるような植民地というようなものに、われわれを貶めてしまったのであります。連合諸国にも責任がありますよ。後の超大国、特に、未だに居残り続けている米国は罪が重いと思うのです。しかし、もっとも責任が重いのは、当然ながら日本であります。そして、彼らの教科書ときたら！ 何が書かれているか知っていますか。認め、白状し、真の意味で謝罪することを、彼らはしないのです。一体、彼らは学ぶということをしないのでありましょうか。

【朝鮮半島の「従軍慰安婦」】 いまだに私の涙は枯れません。日本人は強制し、強姦し、侮辱し、人間として、女性としての私たちを貶めたのです。拒否した者もいましたが、皆の前で見せしめとして殺されました。確かに、自分から進んで「慰安婦」になったものもいます。でも、だからといって、そのことを盾にして問題をすりかえて、残りの私たちの測り知れない苦しみを、お願いですから無視することをしないでください。私たちは生命を失ったのです。朝鮮半島の男性は、私たちに触れようとしなくなりました。やっと最近になって初めて、私たちはこの苦しみを話したり分かち合ったりできるようになったのですよ。

【在日コリアン】 日本はわれわれのことを奴隷としてこき使ったのです。われわれは、故郷から、家族から、強制的に連れ去られ、弾薬工場や、鉱山や、彼らのためなら何にでも、そして、彼らの戦争のために働かされたのです。戦後は、大勢が日本に居残り、大きなコミュニティを構成しました。しかし何をしようとも、日本人はわれわれを決して尊重してくれはしませんでした。日本人として認めてもらえず、朝鮮半島の人間でもありえないという、2つの現実の狭間で、われわれは立場を見失っているのです。

【中国の政治家】 当時、われわれには力がなかったのです。その状況に、さらに内乱が追い討ちをかけたのでした。日本人は、このことを帝国構想のために上手に利用したのです。満州に侵攻し、そこに 傀儡国家、満州国を建設した。そうして、次には大きな攻撃がやってきたのだった。南京の強姦がなぜ起こったか分かりますか？ 彼らの目的は、中国に脅威を与えパニックを起こし、そして、そのことによってはっきりと自分たちが主人であることを知らしめるためだったのですよ。身の毛もよだつ731部隊では、生体解剖を実験していたこともあるくらいですからね。彼らが何を得たかって？ 憎悪と深い抵抗ですよ。まだまだ大いに残っていますよ。

【中国の南京大虐殺の犠牲者】 大きな町における大量虐殺でした。でも、彼らは教科書の中で扱っていないのです！ 母親たちが見ている前で、空中に赤子をほうり投げて銃剣で突き刺したり、強姦したり、殺戮したり、溝に放り入れたりすることが何週間も何ヶ月も続きました。私はかろうじて隠れ、夜中に逃げ出しました。今、私は、日本人のウソのすべてに抵抗するためにこのことを話しています。そのウソは、いまだに残っています。

【チャイニーズ台湾人】 さあ、私は何を言ったらいいか……。台湾の日本の植民地主義は間違っていたと思います。悪いことでした。でも、悪いばかりじゃなかったのです。ご存知のように、私たちは、日本人が来る前は、中国本土の一部であり、彼らは、日本が居なくなってから帰って来たのです。彼らは、私たちによりひどい扱いをしましたよ。日本人は、学校や病院や道路などを建設しました。中国にとって、私たちはただの所有物でしかなかったのです。私は、日本に甘すぎるのかもしれませんが。でも、比較せざるを得ません。そして、植民支配者としては、日本の方がまだましだという結論に達するのです。さらに、彼らはもっと何十年も前に私たちを侵略していたけれど、多分、そうしているうちにさらに悪くなっていったのかもしれませんが。

第2段階

【長老】 みなさんの言葉に心から感謝します。それらの言葉は単に口先からではなく、心から発せられました。あなたたちはそれぞれの立場から、生きた証言をしてくださいました。それらは、黒沢明の素晴らしい映画である『羅生門』の真実の再証明のようですらありました。すなわち、同じ物語は、それを生き、考え、物語る様々な人々がいるように、多くの側面を持つということです。さて、ここで、私はみなさんに問題を深く考えることを求めたいと思います。今度は、あなた方が、行うことができたけれど行わなかったことについて、深く考えてみることにしましょう。そうすることで、責任を共

有し、謝罪も可能になります。では、順番に始めましょう。

【日本の政治家】 それは、大激変そのものでありました。もちろん戦争は戦争であります。戦争というものはそういうものであります。われわれにも言い分はありました。しかしあのような被害を押し付ける権利はありませんでした。われわれはもっと交渉し、戦争の拡大を押しとどめるべきでした。あのような暴力は何をもってしても正当化できません。深く謝罪します。しかし、被害があったことを元には戻せません。

【日本の零戦突撃隊員】 今になって、多くの事実を私は知っております。そして、結果がどうなったかということも知っております。もちろん米国は報復しました。しかし、私はもっと多くのことを知るべきでした。私はただ命令に従っただけでありました。私は零戦と自分の操縦技能を誇りに思っておりました。何と愚かだったことか。おもちゃをもてあそぶ子供でありました。私は、謝罪いたします。

【日本の女性ヒバクシャ】 政府が私たちをあのような恐ろしい戦争に導くことを、私たちは決してさせてはならなかったと思います。私たち女性は、社会の半分を占めています。もし、私たちが社会の一員であることを拒否し、工場動員を拒否し、夫や兄弟や息子や父親に、隠れ、海外に逃げるように、また、あれほどまでの人殺しをするのではなく、自殺するように言っていたならば……。私は、謝罪します。

【米国の政治家】 おそらく、われわれは無人島に原爆を投下すべきだったのでしょう。あれほどたくさんの人を殺すべきではありませんでした。そうしたメッセージで、十分だったはずですが。われわれは誤りを犯し、結果として、戦争においては何をしても良いかの敷居を下げることになってしまいました。もちろん、日本人の真珠湾攻撃は誤りです。しかし、われわれも彼らを挑発すべきではなかったし、それについて後になっても嘘をつくべきではありませんでした。われわれは、傲慢で無知でした。世界の覇

権を追及していましたが、今でもそうです。私たちには知性がなかったし、知的であるための道徳的な能力もなかったし、いわんや、そんなことをする権利もありません。あれらの2発の原爆に対してだけではなく、他人の戦争や帝国の中に入り込むことによって世界の支配者になる野望に対して、われわれは、謝罪します。

【米国の原爆投下操縦士】 私のやったことは、言葉に尽くせぬ犯罪です。私は拒否すべきでした。無知は言い訳にはなりません。私はどんな犠牲を払っても、情報を得るべきでした。私は、何が何でも戦闘機を不時着させるべきでした。それが、われわれの小さな生命を奪ったとしても、1発の爆弾で一瞬の内に殺した何十万の生命が救われたのですから。私は、心の底から謝罪します。

【米国・ハワイ人】 われわれもまた、責められるべきです。ハワイ人は、米国の軍事攻撃、併合、そして米国の軍事化に対して、もっと闘うべきでした。彼らは、われわれをおとりとして使い、遠くはなれた島から零戦をおびき寄せたのです。零戦操縦士の人々には、気の毒なことでした。しかし、われわれも米国によって使われようとしたのです。抵抗に失敗したことを、謝罪します。抵抗は、言葉によってだけではなく、行動によって、深層行動によって、強い行動によって、非暴力によって行われるべきでした。われわれの伝統には、非暴力ということが豊富にあるのです。結局、「アロハ」はわれわれを結び合わせる、「大きな一体化」のことであり、それは人と人の間だけではなく、自然との間の一体化であり、生きている自然だけではなく、いついかなる場所においてもあらゆる自然との一体化のことなのです。私も、謝罪します。われわれはもっと、より多くのことを行うべきでした。

【朝鮮半島の政治家】 われわれは、金日成の指揮下で戦いました。多くが、戦死しました。捕虜になり、投獄され、拷問され、処刑されました。しかし、日本の帝国主義に対してもっと闘うべきでした。われわれの多くは、敵と協力しました。大義のために彼

らに勝利すべきでした。しかし、心を込めて言いますが、「しかし」、ガンディーから学ぶべきでした。彼は、ほんの数カ国向こうにいただけでありました。彼は、われわれと同じくらい植民地主義を憎んでいました。しかし、彼は非暴力によって闘い、ほとんど暴力なしで独立を勝ち取り、植民地者とも良好な関係を築いたのです。彼から学ぶべきでした。私は、謝罪します。

【朝鮮半島の「従軍慰安婦」】 私たちには、日本の帝国主義のあらゆる側面について学ぶことができる場所があったに違いありません。私たち女性にとってだけでなく、男性にとってもそうです。私たちは、日本人は動物だと考えていました。しかし彼らの中にも人間的なところがあり、私たちはそこに訴えることができたにちがいありません。しかし、誰もそうしたことを教えてくれませんでした。そして、個人的な抵抗はとても危険なものでした。しかし、こうした抵抗が起り得ることを私たちは知ることができたかもしれません。私たちは、こうしたことのために自分自身もっと準備すべきでした。私は、謝罪します。

【在日コリアン】 われわれも、強制されるに任せず、どうしたら抵抗できるかをもっと学ぶべきでした。そして、そのことは今日でも言えることです。おそらく、われわれは日本の社会に入り込みたい一心でいるのですが、日本の社会は、決して完全にわれわれを受け入れないでしょう。おそらく、もっとガンディーに学んで、われわれ自身の文化に自信をもち、われわれ自身の制度をもっと作り出すべきなのでしょう。日本の基準に随って日本社会に参加したいものは自由にそうさせ、他のものは朝鮮独自の文化を作り出すようにしよう。これが、私の謝罪です。遅すぎるということはないでしょう。

【中国の政治家】 われわれは、あまりに弱く、分裂していました。確かに、そのことを侵略者のせいにははいけません。彼らにもっと抵抗すべきでありました。もっと強くなるべきでありました。そして、おそらくわれわれもガンディーから学ぶべきであっ

たと思います。彼は、少し奇妙なところがあると考えていました。こうした考えを克服し、われわれの暴力は日本人を強くするだけだということを理解すべきでした。非暴力が重要な方法でした。これが、私の謝罪です。

【中国の南京大虐殺の犠牲者】 私たちも、あまりに弱く、分裂していました。日本帝国主義に対してもっと強力に抵抗すべきでした。彼らが市街地に入り虐殺を始めた時は、すでに時遅しでした。こうした事態を予見し準備しておくべきでした。これが、私の謝罪です。しかし、私たちよりももっとも謝罪すべき者が他に確かにあると私は感じます。

【チャイニーズ台湾人】 日本人と中国人の両者を相手に抵抗するのは、高くつきすぎます。小さい方の悪に抵抗するのは、人間的なことです。数世代後の今やっと、日本人からだけではなく中国人からの解放の道を、台湾人はゆっくりと見つけつつあるのです。そして、私たちは、両国とも、かなり良好な関係を結んでいます。おそらくここが重要な点でしょう。より非暴力的なアプローチはそれだけ有効ですが、より時間がかかるのです。西洋医学の治療法に比して東洋医学の治療がそうであるように。私は、謝罪します。しかし先ほどの友人と同じように、他のもっと謝罪すべき者がいるように感じます。

【長老】 より深い理解に向けたあなた達の探求に、心底から謝意を表します。われわれ人間は、何を行うかによって存在するだけではありません。われわれは、また、何を行わないか、どのような行動に失敗したか、どのような行動をおこなうべきであったか、にもよるのです。私は、この対話の中で何度も出てきたことをノートに記しました。それらは、われわれはもっと知識をうるべきであった、もっと洞察すべきであった、時によって命令に対する不服従を行うべきであった、非暴力的に抵抗すべきであった、そのやりかたを知るべきであった、ということです。

さあ、隣人同士が手をつないで、私たちを結びつけるホーポノポノの輪を作りましょう。お互いに頭を下げあいましょう、それぞれが、起ったことに対して、それぞれの立場で責任を考えましょう。そして、さらに、行えなかったが行うべきであったことについて考えをめぐらせましょう。あなたがたは、個人個人が謝罪しました。これが集合的謝罪というものです。

第3段階

【長老】 それでは、第三番目すなわち最後の段階に、移りましょう。雲は暗く立ちこめています。それをどうして取り払い、平和の太陽を私たちすべてに輝かせることができるでしょうか。過去を水に流し和解することで、傷は癒されすべてが終わるということが、不可欠であることをわれわれは知っています。しかし、本当の平和は、一体性の中にこそ見出せるのです。その一体性とは東アジア共同体に他なりません。ヨーロッパのEC（欧州共同体）、今日ではEU（欧州連合）に比せられるものであり、OSCE（欧州安全保障協力機構）に比せられるOSCAP（アジア太平洋安全保障協力機構）を伴うものです。さて、最終の段階に入ります。

【日本の政治家】 何か起るべきだとしたならば、今まで実行に失敗してきたことを、われわれは行うべきであると、私は考えます。自らの過去をしっかりと把握しなければなりません。それは、われわれの失敗だけというものではありません。そして、すでに西に向かつては朝鮮や中国に対して、東に向かつては米国に対して、謝罪しました。さらには、ドイツ人から学ぶべきであります。謝罪とは、われわれ自身に対する関係の問題でもあります。自らが行ったところの誤った行動を認めることであり、ある期間すべての拒絶であり、われわれの社会や文化の深部に潜んでいる、ある性格への拒否であるのかもしれない。そして、そうした性格とは、15年戦争のずっと前からあったものであ

り、今日でもわれわれと共にあるものかもしれません。それは、われわれ自身との関係の問題であり、われわれにとっての意味をもち、われわれの子供さらには孫にも意味をもつものでありましょう。このためには、適切な学校教科書ほど有益な手段となるものはありません。謝罪を長いこと滞納してきたけれど、遅きに失してはダメであります。

しかし、同時に、われわれは未来志向でないといけません。そうです、地図を少しながめるだけで、われわれがどこにいるかを十分に知ることができます。ヨーロッパの経験から学びましょう。彼らは家族の一員としてドイツを受け入れ、またそのために西側の欧州諸国からなる家族を創造しました。これがEECであり、ECであり、今日ではEUとなっているのです。

東アジア共同体を創造しましょう。南北朝鮮が入り、そのため両国はより親密になるでしょう。また、中国と台湾が入り、そのため両国はより親密になりましょう。千島4島の北方領土も何らかの方法で入れれば、その結果、おそらくわれわれはより親密になることでしょう。それは、経済的な共同市場以上のものでありますが、連合とまではいかないものです。

われわれ日本人は、われわれが他人にしてもらいたいことを他人に対して行う、公平と衡平との困難な技法を学ぶべきです。そして、仲間にベトナムも加えましょう。ベトナムは、もう一つの儒教・仏教国であり、中国の文化と歴史に深く影響されています。そして、日本から、フランスから、米国から、そして中国から、誰よりも被害を蒙り、そしてわれわれを負かしたか、あるいは破滅から辛うじて逃れました。米国は、明らかに東アジアの地理には属していませんし、儒教・仏教的文化をもっていませんし、また巨大国中国の隣国でないためその歴史の影響を受けていません。米国は加入することもないし、排除されることもありません。われわれは、ヨーロッパ人が米国を遇する仕方を学ばなければなりません。日本人は、米国・中国とも、また南北朝鮮・ベトナム

とも対等の関係でありたいと思います。前者にへりくだり、後者に傲慢でありたくはありません。私は、戦争をすることを否定している日本国憲法第9条が、われわれの必要とするすべてであると考えてきました。しかし、われわれは、もっと建設的な何物かを必要とします。私には、われわれの歴史における新しい局面が来るように感じられます。

【日本の零戦突撃隊員】 同感です。数百万人も日本人が亡くなりましたが、それは一体、何のためだったのでしょうか。天皇陛下のため？ 天照大神のため？ いまや、そのようなものは、だれも信じていません。何のために、われわれ自身だけでなく、他人の生命をも犠牲にしたのでしょうか。無のために、すべての世代が長い冬の雨とともに排水溝に流されてしまったのでしょうか。われわれが戦争に勝利しなかったのは、確かに良いことでした。しかし、われわれはまた平和を得ることもありませんでした。すくなくとも、そのような苦しみに何らかの意味を与えるような平和があるべきです。そこに込めたもの以上に、そこから実るものは大きいでしょう。私は、この構想に参加したいと思います。

【日本の女性ヒバクシャ】 私も、賛成します。私たちの言い尽くし難い苦しみに、何らかの意味が見出されなければなりません。苦しみは、それで十分に悪いことです。何の意味も見出せないまま苦しむことは、地獄にいるようなものです。ヒロシマからのあの光には、ノーモア核兵器、ノーモア戦争というメッセージがあったのです。私たちは、そうしたメッセージをここから永遠に発しつづけます。しかし、原爆や通常兵器を撤廃するだけではまだ十分ではありません。まず、わたしたちの隣人との真の平和から、始めましょう。東アジア共同体は、経済的なものに限定されるべきではありません。東アジア共同体は、命を奪われた人々に対する、永久的なモニュメントであるべきです。私たちの文化は、ともに発展するべきです。東アジアの女性についてもそうです。たいいていの男性よりも、私たち女性における生命に対する畏敬によって、ある中国人の言うよ

うに、初めから女性が天の半分を担う共同体にしましょう。

【米国の政治家】 私は、聞いたし、学びました。私にとっては全くの初耳ですが、とても気に入りました。今、私は、もし日本人に悔い改める気持ちがあるとするなら、果してわれわれはどうかと考えているのです。確かに、われわれも筆舌に尽くし難い過ちを行ってきました。ヒロシマやナガサキは言うに及ばず、日本だけでなく欧州でも、いたるところでわれわれは爆撃を行い、市民を殺害してきました。教科書に書くべきことは多いのです。ピルグリム・ファーザーズの上陸以来、もし、われわれの歴史が、われわれの手による他の人々が蒙った苦しみ of 歴史として書かれるならば、その教科書は極めて大部なものになるでしょう。

しかし、気がかりなのは、より深いところいくつかの問題があることです。われわれは、国益と呼ぶものに囚われているのです。われわれの国益は世界中にあると考えるだけでなく、どこで、いつ、どのように制定するかを、われわれが、しかもわれわれだけが、決定すべきだと考えているのです。しかし、考えてみれば、国益とは、国民と一体であり、美しい米国を築くことにあるのかもしれない。それは、米国という場所においてだろうか。そして、もしアラスカのイヌイット、ハワイ人、先住民、ヒスパニック、アフリカ系アメリカ人が、代替案を求めてくる場合、それを拒否する「われわれ」とは一体誰なのだろうか。ちょうど、日本人が、隣国すべての国々に対する統治権を神から付託されたという考えを捨てなければならなかったように、世界に対して統治権が付託されたという考えを、われわれも捨てなければならぬのでありましょう。世界とは、われわれにとって支配すべきオモチャである・・・(周囲を見渡して、何かに気付いたように焦りを見せ、頷きながら)・・・のではないのだ・・・。

しかし、ここでなすべき仕事があるのです。われわれが、Aの地点にいるとする。そして、Bの地点に進みたいとする。そうであれば、一緒に車を押したり引いたりして、

同じ方向に動かさなければなりません。アジア太平洋には、何らかの形で、安全保障と協力のための組織が必要であります。そこにおいて、われわれは、オブザーバーとしての立場に留まるのがよいのかもしれませんが、しかし、アジア・太平洋半球のフォーラムにおいては、われわれが可能な限り貢献し全面的に関わっている国連はもちろんのこと、われわれも全面的に関わらせてもらいたいのです。すべてに参加する必要はないが、まったく排除されるべきでもありません。東アジアの中において、強い絆の協力が生まれるのは望ましいが、それは米国とともにあるべきであって、米国に敵対するものであってはならないのです。

【米国の原爆投下操縦士】 私の身体は傷を被ったわけではありませんでした。しかし、私の心は、魂は、傷を受けたと思います。犠牲者の苦しみを思ってそのことに苦しんだだけではありませんでした。他の人々に筆舌に尽くし難い苦しみを与えた原爆を投下した者としても、苦しんだのです。核兵器を廃絶せよ。すべての兵器を廃絶せよ。そして、われわれ兵士は、自らが行ったことを自らに知らしめよ。受け入れられない結果をもたらす命令には、決して従うべきではないのです。退役軍人が戦争に反対することは、必要なことであります。東アジア共同体については、どこに首都が置かれるべきか、私には意見があります。それは、ヒロシマではありません。ヒロシマはすでに、まさに人間の愚かな行為や苦しみを記念する地となっています。東アジア共同体の首都は、沖縄に置かれるべきです。米国と日本の双方の兵士達が相互に殺し合い、また民間人を殺した土地であり、その民間人は集団自決によって自らを殺した所であるのです。いずれにせよ、沖縄、すなわち彼らが琉球諸島と呼ぶ土地は、特別の地位を得るべきでありましょう。沖縄を東アジア共同体におけるブリュッセルやジュネーブにするのはどうでしょうか。さらに、香港に国連を新たに誘致するのはどうでしょうか。

【米国・ハワイ人】 それは、すばらしい将来像ですね。異論はまったくありません。

ただ、私にとっては、ちょっと話が大きすぎるような気がするのです。私たちが求めるのは、アロハの精神に靈感を得た、東太平洋から西太平洋にまで及ぶパクス・パシフィカ（アジア・太平洋の平和）にはほかならないのです。しかし、あなたたち東西のご立派な人々は、その中間の島々に住むわれわれ——ポリネシア人、ミクロネシア人、メラネシア人など、あなた方が呼びたいように呼んできた島民——をお忘れのようですね。私は、「太平洋とわれわれは一体だ」と言っているわけじゃありませんよ。しかし、今でも、私たちの多くが植民地化されています。私たちの権利のもとにある土地を返してほしい。われわれの主権を戻してほしい！

私たちは誰を排斥しようとしているわけではないのです。しかし、この土地は私たちのものなのです。人間とは自然の一部であり、自然は私たちの中にあります。あなた方が西と東でやっているような自然を破壊することは、自らを殺しているということなのです。私たちは、自然という贈り物を共有しているのです。土地を区分することは、まさに自然に対する悪意のあるたくらみなのです。そして、私たちを満たすアロハの精神は、われわれを「われわれ」にするのです。あなた方がわざわざ大文字で書く西洋の「私」とは違うものなのです。どうぞお住みください、ただし私たちのルールに従って。

【朝鮮半島の政治家】 東アジア共同体は素晴らしいと思います。その中であって、民族統合はより容易に進むでしょう。そこが重要なところでもあります。他の民族がそうであるように、われわれ朝鮮人も1つの民族になる権利があるのです。そこでは、2つの国家の間で、国境が開かれ自由に往来できるはずで。それは、後には、1つの国家になるかもしれません。そうしたコミュニティにおいては、中国や日本といった隣の大国とわれわれは同等になるだろうし、両国の調停役を務めることさえできるかもしれないのです。ベトナムが入れば、われわれは2つのより大きな国と2つのより小さな国とから構成されることとなります。それは悪くはないと思います。

ただし、われわれには、このホーポノポノに出席していないロシアに対して聞いて欲しいことがあります。彼らは、東アジアの家族の一員ではありません。しかし、ヨーロッパにおけるOSCEのような組織、つまりアジア太平洋安全保障協力機構(OSCAP)の一員となるのが望ましいでありましょう。そして、ロシアは改革された新しい国連の一員となることによって、皆が結束するのです。米国と中国のように、彼らも拒否権の発動をあきらめ、われわれのようになるのです。そして、日本はそうした拒否権を持つ大国クラブのメンバーになること以上に、高い目標をたてなければなりません。大国はたしかに巨大です。しかし、われわれの歴史は、そうした国々が偉大ではなかったということを語っています。

【朝鮮半島の「従軍慰安婦」】 私にとって、東アジア共同体は、かりにそれが日本人を文明化できるものでもあるならば、素晴らしいものだと思います。それは民族や国家のコミュニティですね。それはそれでいいでしょう。しかし、それは男性と女性の間のコミュニティにならなければ、真の共同体にはとうていならないでしょう。彼らは私たちをなぐさみものと見なしていました。いまでも男性の多くがそうです。これを言い表すのに、無礼という表現ではまだ穏やかすぎます。男性が女性に敬意の念を持つことを学ばなければ、民族や国家によってつくられたどのようなコミュニティも—彼らはこのようなものを作るのが大好きなので—致命的な欠陥があるでしょう。

【在日コリアン】 東アジア共同体では、私たちはある意味で、朝鮮人と日本人の両方であることができ、家庭でのように居心地良く感じるでしょう。私たちの多くは、一般的に言って、完全にバイリンガルであり、2つの文化を身につけていますからね。しかし、日本人も、より多文化的にならなければならないのです。彼らの多くはこれまで、まずまずの英語を話してきました。しかし、韓国朝鮮語についてはどうでしょうか。日本人は、私たちに日本語を話させ、日本名を名乗ることさえ強制しました。そのかわり

として、日本人は私たちの言葉を話す意思があるでしょうか。それとも、世界中を植民地化し、自らの宗教と言語を他者に押し付け、スパイスを集めるだけの西洋人のように、何も学ばないのでしょうか。

ともあれ、日本人のなかに暮らしてきて言えるのは、——彼らは偉大な学習者であるということです。ひとたびその気になれば、グループのなかに座って、隣国の言葉でも何でも、必死になって学ぶことでしょう。

【中国の政治家】 東アジア共同体はすばらしいものでしょう。私は、それがまた、西洋の国々、ロシア、ならびに米国と、友好的で衡平的關係であるべきという点に賛成であります。われわれが、この2国から多くの苦しみを味わってきたとしても、そうすることに賛成であります。もちろん、それは日本の覇権のための道具となってはならないのです。日本は専横にふるまう傾向があり、われわれはそれを受け入れることはできないのです。

しかし、われわれにも学ぶべきことはあります。われわれが、中央に座す王朝であり、北・東・西・南を蛮族によって囲まれているという古い儒教の考え方は、良いものとはいえません。米国の人々やロシア人、ましてや日本人のように、われわれは皆、数ある民族の家族中の1つにすぎないということを学ぶ必要があるのです。それは、彼らにとって容易ではないし、われわれにとっても容易なことではありません。

われわれは、ともに偉業を、奇跡さえも、なしとげることができるでしょう。東アジアには約15億もの人々がいて、すべて勤労という儒教倫理や共有と共同体という仏教倫理に影響を受けているのです。われわれは、いつもそのように実践してきたわけではなかったのであります。誰かに敵対するのではなく、彼らすべてとともにあるという時期がきたのです。われわれの国境は、資本、商品、労働力のためにも双方向的に開

かれ得るでしょう。何か偉大な変化が起きつつあるのを感じます。われわれは、そこに加わりたいと思います。

【中国の南京大虐殺の犠牲者】 やれやれ、ごたいそうな言葉、男達の言いぶりですね。政治家はそのような言い方をするのですね。もっとも、もっとひどい話を昔聞いたことがありますね。1つだけ話します。私たちの街は残忍な破壊をこうむりました。私たちが望むのは、礼儀正しい日本の都市と直接協力することです。朝鮮半島の都市も同じことを望んでいるに違いありません。その場合、お偉方同士の話ではなく、人々と人々の関係であるべきなのです。何千もの都市や何百もの非政府組織が参加するのです。人々が会い、親交を結び、戦争やほかの惨劇についてだけでなく、人間のくらしの美しさについて経験を交換するのです。私たちの文化を開花させましょう。私は、それを切に望むものです。

【チャイニーズ台湾人】 東アジア共同体は、台湾を1つのパートナーとするものであれば、いいものになりそうですね。私たちは、中国と海峡をこえた交易を行っていますが、これをさまざまな方向に拡大できるでしょう。あなた方は、中心がどこにあるべきかと話されてきましたね。大きなコミュニティはどこかに中心が必要ですが、それは大国に置くべきではないと思います。私たちの所が良いかもしれないですね。私たちは、中国語と英語の両方を話します。私たちが、それぞれの言語に敬意を払うことを学ぶとしても、英語はなんらかの役割を果たすでしょうね。忘れないで欲しいのは、私たちは中国と日本の両国との経験があるということです。かりに、日本だけでなく両国が教科書を書き換えるならば、私たちは両国とよりよい関係を築けるだろうと思います。

【長老】 再び、私は、われわれが進むべき道についてノートを取りました。それは同心円を形成しています。それらは、東アジア共同体、アジア太平洋半球全体にわたるOSCAP（アジア太平洋安全保障協力機構）、それに全世界にわたる国連です。

そして、再び、あなた方をお願いします。手を繋ぎ、このサークルを閉じて、平和的な考えを考え、それをあなた方の心で感じ取って下さい。しかし、頭を下げることはお願いしません。われわれのビジョンを祝う喜びの時を共有するために頭を上げ、高く保っててください。そしてまた、太平洋の歴史における悲しい1章の中で、われわれが犯した様々な事実を書いた紙を高く手にとり、マッチで火をつけましょう。われわれは、決して忘れることはしないでしょう。しかし、その章を終えることができるのです。そして、新たな章を開くことができるのです。その章のタイトルは、もう皆さんご存知の通り、アジア・太平洋の平和（パクス・パシフィカ PAX PACIFICA）なのです。

国際トランセンド

<http://www.transcend.org/>

トランセンド研究会

<http://www.transcendjapan.org/>

トランセンド関西

<http://homepage2.nifty.com/tagengo/transcend.htm>